



## 採用ピッチ資料

2023.10.01



Copyright © 2019 AIRMOBILITY ALL Right Reserved

## 産業革命の最初の100人になりませんか



はじめまして。

「空飛ぶクルマ」のプラットフォームビジネスを手がける、エアモビリティ株式会社と申します。

空飛ぶクルマと聞いて、遠い未来だと感じていませんか？

空飛ぶクルマは、次世代モビリティとして世界各国で開発が進められています。

日本でも経済産業省による「空の移動革命に向けたロードマップ」\*において、2020年半ばからの事業スタート、2030年代からの実用化の拡大が掲げられ2025年に大阪万博で実現、その後、一般販売も開始される予定です。

エアモビリティ株式会社は、こうした社会の実現に向けて、インフラのプラットフォームを構築しています。2050年にはその市場規模は1,200兆円にまで達し、自動車産業を上回ることも予想されていますが、現状は空飛ぶクルマは、まだ遠い未来だと感じている方がほとんどです。

そんな私たちと先駆け、未来と一緒に創りませんか？

エアモビリティ株式会社 代表取締役社長&CEO

浅井 尚

\* 経済産業省と国土交通省による「空の移動革命に向けた官民協議会」内で取りまとめられたロードマップ

社 名 : エアモビリティ株式会社

英 文 名 : AirMobility Inc.

住 所 : 〒107-0052

東京都港区赤坂3-5-5 ストロング赤坂ビル9階

設 立 : 2019年8月1日

資 本 金 : 6億3千万円(資本準備金含む)

### 事業内容

- ・空飛ぶクルマ関連のインフラプラットフォーム  
AirMobility Service Collaboration Platform(ASCP)の開発・運用など
- ・海外の「空飛ぶクルマ」メーカーの日本市場参入支援

### その他

- ・経済産業省と国土交通省が設立した「空の移動革命に向けた官民協議会」構成員
- ・大阪府が主催する「空の移動革命社会実装 大阪ラウンドテーブル」の構成員
- ・空飛ぶクルマをテーマにした専門展「フライングカーテクノロジー」の実行委員



## エアモビリティ株式会社の今と未来をお伝えします

1. “空飛ぶクルマ”の魅力とは . . . . P5
2. プラットフォーム構築の実現に向かって . . . . P10
3. 未来を一緒に創りませんか？ . . . . P18

# “空飛ぶクルマ”の魅力とは

空飛ぶクルマ産業はこの世界を変える力を持っています。

未来を切り開き、空のモビリティの可能性を広げることができる魅力的な産業です。

## 空飛ぶクルマの魅力

空飛ぶクルマの業界の魅力を一言で言うと「ゲームチェンジ」です。

誰も見たことのないSFの世界のものと思っていた空飛ぶクルマにもうすぐ乗れるのです。

実現のためには、技術革新、ライフスタイルの変革、市場創造など多くの課題があります。

エアモビリティ株式会社は新たな社会的および経済的価値を創造し、

多くのゲームチェンジを成し遂げます。

# “空飛ぶクルマ”※ とは

明確な定義はありませんが、「電動」「自動（操縦）」「垂直離着陸」が一つのイメージです。

諸外国では、eVTOL (Electric Vertical Take-Off and Landing aircraft) やUAM (Urban Air Mobility) とも呼ばれ、新たなモビリティとして世界各国で機体開発の取組がなされています。

我が国においても、都市部での送迎サービスや離島や山間部での移動手段、災害時の救急搬送などの活用を期待し、次世代モビリティシステムの新たな取り組みとして、世界に先駆けた実現を目指しています。

(国土交通省発表“空飛ぶクルマについて”より抜粋)

※「クルマ」と称するものの、必ずしも道路を走行する機能を有するわけではなく個人が日常の移動のために利用するイメージを表しています。

※必ずしも「電動」「自動」「垂直離着陸」だけに限定されず、内燃機関とのハイブリッドや有人操縦、水平離着陸のものも開発されています。



# 空飛ぶクルマの用途とは

空飛ぶクルマの様々な用途が想定されており、まさに空の移動革命が実現予定です。



### 空飛ぶタクシー

世界の都市渋滞は深刻です。渋滞のない空は市場が大きく経済効果が大きい市場です。

### ドクターヘリの代替

一刻を争う現場での社会受容性は高く、従来よりコストが削減されます。

### 地域医師派遣

医師や患者の緊急搬送荷物輸送など必要性と社会受容性が高いサービスです。

### 災害救助

災害発生時や急病人発生時等、自衛隊との技術共用など社会受容性が高いサービスです。

### 過疎地交通手段

JR廃線後の交通手段や赤字路線の代替として注目されています。

### 離島の交通手段

全国には有人島が約420ありニーズが見込まれています。

### エンターテイメント、観光、レジャー

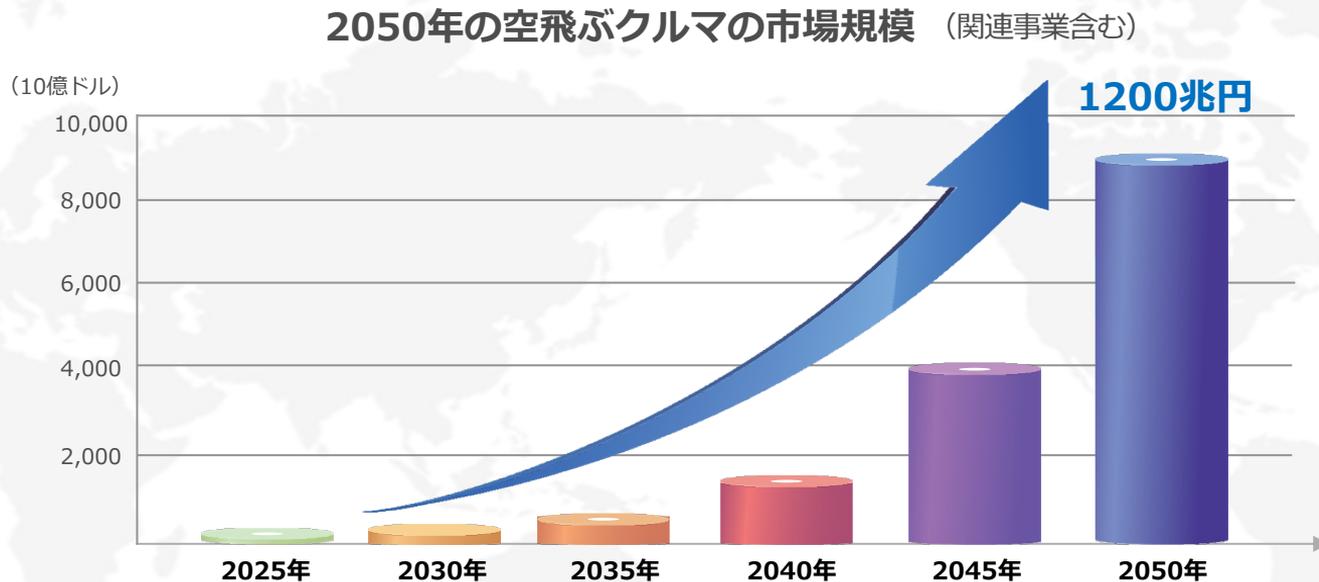
観光地などでの周遊飛行・観光地へのアクセスなど。業界への関心が高いサービスです。

### 地方都市間交通手段

地方空港の多くは羽田便、大都市のみとなり企業誘致のために交通の便が必要です。

上記の他、企業が独自に導入し自社利用するユースケースや、将来的には自家用として個人で所有、利用するユースケースも想定されます。

## 2050年に市場規模は1200兆円にまで達し、自動車産業を上回る予想



「クローズアップ現代 実現迫る“空飛ぶクルマ”暮らしはどう変わる？」より抜粋

# プラットフォーム構築の実現に向かって

世界で空飛ぶクルマの機体メーカーは400社以上。

機体開発と同時に、ナビゲーション、離着陸場等、

安心・安全な運航に必要なインフラプラットフォームの構築が求められています。

## 実現のため、すでに始動している**3**つの**魅力**

**日本初**

**プラット  
フォーム**

**仲間**

エアモビリティ株式会社は「空飛ぶクルマ」の専門会社として

**日本初** のインフラ **プラットフォーム** を構築し、

信頼できる素晴らしい **仲間** とともにモビリティの「未来」を創造しています。

# サービス インフラ プラットフォーム事業

AirMobility Service Collaboration Platform (ASCP)

共通基盤であるAirMobility Service Collaboration Platform (ASCP) 上に必要なサービスを構築し、提供することで、安心・安全な航行をトータルサポート。

プラットフォーム上に、空のナビゲーションシステム「AirNAVI」  
安全な離着陸をサポートするシステム「IVport」などを開発

フライトに関するビックデータが蓄積

遠隔診断まで可能に



# 輸入販売プラットフォーム事業

eISP(eVTOL Import & Sales Platform)

海外機体メーカーは、機体を預けるだけで、このプラットフォームが輸入販売にかかわるすべての業務を代行。

各業務は一業種一社と資本提携などの形で連携し、コンソーシアム的な体制構築により、シームレスにワンストップで提供が可能。

eVTOLメーカーは全世界で400社程度存在しているが、国内メーカーは数社であり、当面は輸入機に頼らざるを得ない状況です。

### eVTOL販売連携 プラットフォーム eISP(eVTOL Import & Sales Platform)



機体をプラットフォームに**預けるだけ**ですべての業務を代行



海外機体メーカー



海外機体メーカー

“機体メーカーは世界で400社以上” “ほぼスタートアップ” “日本にアセット無し”

# 有望なスタートアップ企業として評価されています

## 「Morning Pitch Special Edition 2023」ファイナリストに選出

2023年5月18日に東京国際フォーラムにて行われたデロイトトーマツグループ/Deloitte Private主催のスタートアップイベント「Deloitte Tohmatsu Innovation Summit 2023 Entrepreneur Summit Japan」内で「Morning Pitch Special Edition 2023」が開催されました。

エアモビリティ株式会社は、2022年に開催されたMorning Pitch全42回、登壇ベンチャー210社の中から、ファイナリストベンチャー7社のうちの1社に選出され、代表取締役社長&CEO 浅井が登壇いたしました。

Morning Pitchとは、デロイトトーマツベンチャーサポート株式会社、野村証券株式会社の2社が幹事となり毎週木曜7時から開催されている、ベンチャー企業と大企業の事業提携を生み出すことを目的としたピッチイベントです。毎年1回、年間登壇ベンチャーの中からファイナリストを選出し、ファイナルピッチにより最優秀賞が授与されるアワードイベント「Morning Pitch Special Edition」が開催されております。



## 現在の資本提携パートナー

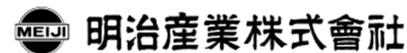
事業パートナーと共にプラットフォーム構築に取り組んでいます



名古屋鉄道株式会社 様



人・夢・技術グループ株式会社 様



明治産業株式会社 様



日本特殊陶業株式会社 様



株式会社武蔵境自動車教習所 様

# 人物



### 代表取締役社長&CEO 浅井尚

1990年富士写真フイルム(株) (現富士フイルム(株)) に入社。

新規事業担当としてファインピックス (デジタルカメラ) 事業やアスタリフト (化粧品) 事業の立上げ等を主導。海外事業の経験も豊富で、富士フイルム(株)の欧州本社 (ドイツ・デュッセルドルフ) への駐在や中国法人社長として中国での駐在も経験。

富士フイルム(株)の複数の子会社社長等も歴任し会社経営の経験も豊富。(株)NTTデータ、サトーホールディングス(株) (役員待遇・経営会議メンバー)、スペシャレース(株) (代表取締役/CEO) を経て、2017年に新規事業のインキュベーションを主業とするイーグルマーケティング(株)を創業。

同年より同社の一部門として「空飛ぶクルマ」事業についてのフィージビリティスタディを開始し、2019年に新設分割により当社設立し、代表取締役社長&CEOに就任。

## 2. プラットフォーム構築の実現に向かって



顧問 水野 誠一

- ・株式会社インスティテュート・オブ・マーケティング・アーキテクチャ 代表取締役
- ・元株式会社西武百貨店 社長
- ・元参議院議員



顧問 内田 和成

- ・早稲田大学大学院経営管理研究科（ビジネススクール）教授
- ・元ポストン コンサルティンググループ 日本代表



顧問 中野 冠

- ・慶應義塾大学大学院システムデザインマネジメント研究科 SDM研究所顧問
- ・「空の移動革命に向けた官民協議会」構成員
- ・元株式会社豊田中央研究所 首席研究員



顧問 根来 龍之

- ・名古屋商科大学東京校教授（特任）兼 大学院大学至善館特命教授
- ・元早稲田大学大学院経営管理研究科（ビジネススクール）教授
- ・元経営情報学会 会長



顧問 小笠原 耕司

- ・小笠原国際総合法律事務所 代表弁護士

## 未来を一緒に創りませんか？

多くの課題を解決し、インフラプラットフォームを構築していくためには、  
「未来」を共有して力を合わせてチャレンジする「仲間」が必要です。

## 人類の誰も経験したことのないマーケットを構築するため 新しいチャレンジをする仲間を求めています

空飛ぶクルマは、都市交通、観光、医療や災害対策など、幅広い分野での利活用が見込まれる新たな産業、サービスです。  
しかし、実現には解決すべき課題が広範囲に多く残っています。

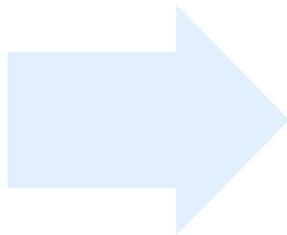
世界をリードする「空飛ぶクルマ」のインフラ構築を目指しているエアモビリティ株式会社は、  
様々な分野の知見、経験、チャレンジ精神を持った人たちと一緒に、  
人類の誰も経験したことのないマーケットの構築を実現させていきたいと思えます。

新しい社会の実現のためには多くの力が必要です。

現在※

15名

から



3年後

100名超

のチームへ

国内では超高齢化社会に対応した新たな国土づくり、安心して暮らせるまちづくりに加えて、  
新技術を活用した魅力あるまちづくりの推進が期待されています。

※ 2023年9月現在の従業員数です。

## 組織図



## すでに素敵な仲間がいる / ビジネス開発本部

—Iさん、今日はインタビューさせてください！

—「仕事内容」について伺えますか？

今私は、ビジネス開発本部部長として開発に携わる業務を幅広く担っています。例えば、空飛ぶクルマの離着陸を管理するシステムであるIntelligent Vertiport (IVport)の開発、それを利用した実証実験の実施や、2023年3月に立ち上げた、空飛ぶクルマ/ドローンの機体メーカーと部品のサプライヤーが会って取引をするためのECサイトであるAeroMallの運用・保守や、その他には、空の移動革命に向けた官民協議会の参加や大学病院との連携、東京都への助成金申請も担当しています。システム開発業務では、通常のソフトウェア開発（要件定義、設計、テストなど）以外に、開発ベンダーの開拓やIVportの事業パートナーや見込み顧客の開拓、実証実験もしています。AeroMall業務では顧客（部品のサプライヤー）の開拓や海外機体メーカーとの定例会議調整も行っています。

—多岐にわたりますね。そんなIさんは、なぜエアモビリティに興味を持たれたのですか？

きっかけは空飛ぶクルマ、という事業ドメインが面白そうという理由が大きなひとつです。

新規事業の立ち上げにかかわるキャリアを積むことで自身の市場価値が高まるとも考えました。隠れた理由として、空飛ぶクルマが話のネタになりそう、というのがあります。笑

—元々どんなお仕事をされていたのですか？

もともとは17年間システムインテグレータ企業で業務システムの導入や運用のSEやPMをやっていました。その間、タイ現法駐在も経験しました。2021年に東京オリパラの組織委員会に転職し、大会終了後にエアモビリティ社に転職しました。

—未来の仲間へ一言メッセージをお願いします！

空飛ぶクルマが産業としてどうなるのか、成長するのか、失敗するのか正直わかりません。ただ今その創成期にあることは間違いありません。

産業の創成期にプレイヤーとして立ち会えることは長い仕事人生の中でもあまりない機会ですし、話のネタにもなるので、ぜひその渦の中に飛び込んできてほしいですね。



## すでに素敵な仲間がいる / 人事 総務

—Hさん、今日はインタビューさせてください！

—「仕事内容」について伺えますか？

はい！私は、主に採用サポートや保険手続きなどの「総務人事関連業務」と、請求書発行や資料作成サポートなどのいわゆる「事務業務全般」を担っています！

—なぜエアモビリティに入社を決めたのですか？

前職は不動産営業をしております、サポートをしたいという自分の強みを活かした仕事とはかけ離れていたんですね。そして、エアモビリティは知人伝いに事務職を募集している話を聞いたことがきっかけです。話を聞いた当時は、実は『空飛ぶクルマ』という言葉も聞いたことがありませんでしたが、実際に会社や事業の話を知って将来性のある面白そうな事業であること、様々な業務に挑戦できる環境であったことに魅力を感じ入社を決めました！

—実際に入社してギャップは何か感じますか？

ベンチャー企業＝若手が多い！と思っていたので、実は入社当時、若い社員が少なかったことに少し驚きました(笑) 最近は若い方も増えてきていますし、何より経験豊富な方々と近い距離で仕事ができるので知識はもちろん、仕事の取組方、考え方など学べることも多く、成長できる環境だと感じます！

—会社の雰囲気について教えてください。

当社は比較的落ち着いた雰囲気、業務に集中しやすい環境だと思います。部署間の垣根はなく、社員同士のコミュニケーションはとりやすいです！

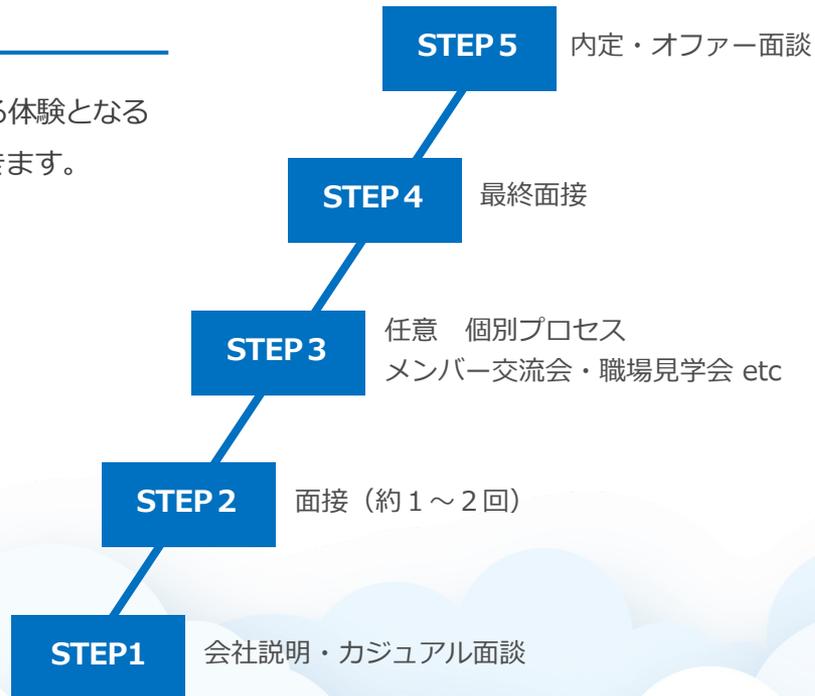
—最後に未来の仲間へ一言メッセージをお願いします。

そうですね、市場もこれから急拡大するので、一緒にエアモビリティ社を盛り上げて下さる方をお待ちしています！



## 選考プロセス

画一的な選考プロセスではなく、お互いマッチングを確認できる体験となるように、選考期間・面接回数・内容は個別に調整させていただきます。  
ご希望にあわせて、アレンジをさせていただきます。



取材記事

ハードだけでは成立しない「空飛ぶクルマ」の実用化、  
安全な空の移動に欠かせないインフラとは



海外・国内のベンチャー系ニュースサイト

TECHABLE

AirMobility株式会社取材記事

<https://techable.jp/archives/174274>

## まずは一度お話ししませんか？

### <求める人物像>

- ◎世の中を変えるような産業に関わりたい方
- ◎様々な人を巻き込みながらプロジェクトを動かせる方
- ◎自ら課題を見つけ、課題解決に向けて行動できる方



**エアモビリティ株式会社**

〒107-0052 東京都港区赤坂3-5-5 ストロング赤坂ビル9階

TEL: 03-6273-1288

<https://airmobility.co.jp/recruit>